

第3回ワークショップの結果概要

1 公共施設の再編方針案について

(1) 拠点となる施設等

①地域の公共施設再編の基本的考え方

- 中心にある施設までのアクセスがしっかり確保されていれば問題はないと思うので、バラバラに投資をするよりも、投資を集中して良いものを1つ作った方がよい。
- 「必要な最低限の機能」とはどこまでの機能なのか。地域コミュニティを維持するために必要十分なものが本当に残されるのか心配になる。地区の避難所となる公民館やコミュニティ形成に重要な祭りのための場は残してほしい。
- 居住地域や世代によっては、下夕の北部と南部地区で細入の公共施設の利用を図ることに抵抗がある人がいると思う。下夕地区住民の意見を十分に聞いて進めるべきだと思うので、現時点ではここまで明記せず、「住民の意見を聴きながら、現実に合わせて機能配置を検討する」といった表現に留めた方がよいのではないか。
- 下夕地区の住民が細入地域の施設を使うことについては、施設までの物理的な距離だけではなく心の距離も問題になるので、それを払拭できる仕組みなどを考える必要があると思う。
- 下夕北部と南部が明記されている一方で船嶽や小羽には触れていないため、船嶽と小羽地区の住民は自分達が「それ以外の地区」に該当しているのかわかりにくいと思う。「それ以外」とは言わずに具体的な地区名を入れるか、下夕は例示であるとわかるように記述した方がよい。
- 細入地域の記述が入っているのを見て、今回の再編を大沢野地域だけで考えて良いのかという疑問が改めて生まれた。もっと広い範囲で考えたほうが良いのではないか。

②優先的に取り組むべき政策

- 記載されている4つの視点には、ワークショップで出された大事な要素が挙げられていると思う。

- 他地区の人口が減る中、大久保地区では人口が増加しており、今後も増える見込みがあることを考えると、複合施設は現在の予定地よりも北部にあった方がよいと思う。
- 北部の人口が増えているのは確かだが、車が運転できる子育て世代が多く住んでいるので、施設までのアクセスのことを考えると、足の確保が難しい高齢者が多い南部に複合施設を建てることは妥当ではないか。

(2) 公共施設の再編方針

①コミュニティの維持

- 利用者は自分が使っている部屋が公民館なのか生涯学習センターなのかを意識していないと思うので、これまで通りに活動ができるのであれば重複する集会機能を整理統合するのは問題ない。
- 地域行事や自治組織の事務などを公民館の職員が担ってくれている現状があるので、公民館がなくなっても地域コミュニティの運営を支援する人員を確保できるようにしてほしい。方針案で人員についても触れられるとよい。

②地域の活性化

- 複合施設に地域内で生産した農産物を販売できる道の駅や JA の直売所の様なものができると、国道を通る観光客に販売することができるし、農家の高齢者の生きがいづくりにもつながるのではないか。
- 地域活性化には民間の企業や施設との連携が必要になると思う。例えば、介護が必要な高齢者と元気な高齢者の健康の回復や維持のための仕組みづくりや運営に民間のノウハウを活用し、各地区の公共施設やリーディングプロジェクトの複合施設で展開できるとよい。
- 笹津駅は大沢野地域唯一の駅であり周辺に観光施設や福祉施設があるにも関わらず、駅前に空き店舗が多く、観光客に何もないとと言われてしまう。空き家を活用したり周辺施設とのアクセスを改善することで、駅前のにぎわいづくりができないか。

③文化の振興

- 武道などのスポーツの振興も重要だと思うので、タイトルを「文化とスポーツの振興」としてほしい。
- 大沢野地域には伝統文化が少ないが、この地域らしい文化がもっと豊かになるよう、祭りの練習や発表の場を残してもらいたい。その際には、その土地の文化に根ざした地区ごとの祭り、中心部に集約する祭りとを分けて考える必要があると思う。再編方針に複合施設を地域の祭りを伝承、発展する場とするという記述があるが留意してほしい。
- 大きな文化施設を建てても、大沢野の地域行事だけでは利用率を上げ、維持費などをまかなうのは難しいと思う。地域外からもイベントを誘致するなど、今までとは違う方法で建物を有効活用できる人材を、民間活用も検討して確保する必要があるのではないか。
- 生涯学習センター、公民館、図書館の3つが挙げられているが、他の2つと比較して大沢野公民館の影が薄く、同列で扱うのに違和感がある。

④少子化対策

- 市役所の何課に相談したらいいのかわからない時があるので、適切な課を案内してくれる人がいるとお母さんたちがスムーズに動けると思う。

⑤利便性の確保

- 国道41号沿線にしかバスが通っていないため不便を感じている。福祉施設や図書館などの公共施設への公共交通が整備されていないのは、車が運転できない高齢者や子ども達にとって問題なので、バスの本数の増加やコミュニティバスの運行をしてほしい。
- シルバータクシーは高齢者にとって便利な制度だが、予約方法や利用ルールに面倒が多く、使うのを躊躇する人もいるようだ。高齢者の子ども世代での認知度も低いので、ルールを改善し、認知度を上げて利用を増やせるとよい。再編方針に例示することで認知の拡大につながるのではないか。

- 中学生が通学のためにタクシーを使っている。スクールバスだけではなくタクシーの活用というのも考えられる。

⑥安全性の確保

- 近隣に安全な避難場所があることは最低限必要なことだ。そのためにも地区ごとの公民館を避難所として残せるとよい。
- 空き家を避難所にする際には耐震化を凶って安全性を確保し、いざという時に使えないということのない様に管理体制も整えてほしい。ただ、空き家を耐震化してまで避難所にする必要があるのかという疑問はある。
- 公共施設ではない施設を避難場所として指定する際には、建物の安全面はもちろん、防災倉庫、備蓄倉庫などの充実度も公共施設と同様のレベルにしてほしい。

⑦財源の確保

- 長寿命化というのは何年を想定しているのか。維持管理がされないことで建物の寿命が短くなることもあると思うので、人員が削減されて職員だけでは管理が行き届かなくなるのであれば、地域が管理の一部を担うことも考えられる。

2 リーディングプロジェクト案について

(1) 全案共通の意見

- 同じ額の予算を使うのであれば利用できる施設は残し、その分を新しく作る複合施設にかけた方が良いものができると思う。生涯学習センターと図書館はまだ新しいので、今のまま使ってはどうか。
- 施設の再編を機に、生涯学習センターを複合施設に入れて新しくするのはよい。生涯学習機能の入った複合施設にする方が国からの補助金も貰いやすいのではないかと。

- 生涯学習センターはまだ使えるとはいえ、ある程度の築年数は経っているのでいずれは建て替えが必要になるだろう。どのタイミングで建て替えるのが良いかは、コストなどを考えて判断する必要があると思う。
- 武道館の代替施設は必要だと思うが、複合施設に入れなくても中学校の武道場をもっとしっかり整備して使えばよいと思う。
- 日本の伝統的なスポーツを子ども達に受け継ぐことは大切なことなので、どの案になっても武道館に代わる施設は必要だ。武道専門でなくても良いが、柔道ができる常設の畳のスペースは確保してほしい。
- 武道館や体育センターの機能を入れるのであれば、現在行われているものだけでなく、ヨガやフィットネスなどのこれまで行われていなかったスポーツもできるようなるとよい。
- 間仕切りで分割して利用できたり、椅子の出し入れが楽な様に自動で引き出すタイプにするなど、使い勝手が良い仕様のホールにしてほしい。
- 大きなホールや多目的スペースを作っても集客に困る可能性がある。今後は200人規模あれば成人式を行う際でも足りるだろうから、広い空間を確保するよりも飲食禁止といった制約条件を無くすなどして、利用しやすいスペースにする方が重要だ。
- 行政サービスセンターが災害対策本部としての機能を果たせるようにすることは、どの案にも入れるべきではないか。
- 災害に強いという地域の特性を生かすためにも、行政の災害時の基地と地域住民の避難場所を整備する C 案のレベルの防災機能をどの案になっても備えてほしい。
- 留意事項に「動線の分離が必要」とあるが、動線を分離したら複合化の良さがなくなるのではないか。安全面を考慮した上で、動線を分離するのではなくお互いの存在を認知できるようにすることが大切だと思う。
- 今のイメージ図だと建物を複数建てるように見えるが、機能を複合した方が各機能を利用する人が入口などで顔を合わせて交流が生まれやすいと思うので、建物は1つもしくは2つがよい。建物が2つになる場合は、雪のことも考えて外に出ずに行き来できる通路を作ってもらいたい。

(2) 各案に対する意見

A 案

- オーバードホールくらいでないと有名人は来ないと思う。コンサートができるようなホールが大沢野に必要なのか疑問だ。固定席のホールにすると用途が限られて使い勝手が悪くなるので、地域の音楽会などのイベントは多目的スペースで行えばよい。
- 学校側の許可が取れるかという問題はあるが、武道場を入れない場合には学校の武道場を活用すればよい。

B 案

- 生涯学習のグループが多く、盛んに活動が行われている地域なので、立派なホールを作って外から人を呼ぶという発想より、地域の活動を支援する方向性の方がよい。
- 多目的スペースを文化活動もスポーツもできる場所にすると、利用団体が多くなって予約が取りにくくなってしまふことが心配だ。この案では畳がなくなる可能性が高く、柔道ができなくなってしまうという懸念もあるので、メインとサブの 2 つのスペースを作り、サブの方は畳敷きにして武道場としても使える様に整備できるとよい。
- この施設構成だと多世代交流拠点というコンセプトが見えにくいので、児童館を複合し、避難広場も作って平常時は子ども達の遊び場として活用できるようにすると、コンセプトが一目瞭然になると思う。また、介護予防プログラムに取りくむなど高齢者向けのソフト展開も工夫できるとよい。

C 案

- 山間にある地域なので災害が付きものだ。防災拠点が近くにあるのは安心だと思う。

- 全ての行政サービスセンターに防災拠点機能があって然るべきだし、災害に強い大沢野地域に災害対策本部の機能を果たせるような機能を整備することは、市にとって重要だと思う。防災拠点にすることをコンセプトとして 1 案つくるというよりも、どの案になっても盛り込むべきことではないか。
- 周辺に避難場所となる学校があり、グラウンドにヘリコプターが降りることもできるので、避難場所になる広場を作る必要性をあまり感じない。広場を平常時にも活用できる場にしないとスペースが無駄になってしまう。
- 住民が避難する場と災害対策本部が同じ場所にあると、困った住民が押し寄せて対処ができなくなるなどの混乱が生じないか心配だ。
- 備品や特別な仕様がが必要な活動や種目があると思うので、多目的スペースで行う活動やスポーツを想定した上で整備する必要があるのではないか。
- 複合施設と生涯学習センターとで建物が別々になるので、行き来しやすくするために 2 つの建物を渡り廊下などで繋いだ方がよい。

D 案

- 大沢野児童館はまだ新しいので、今あるものを活用する方がよい。将来的には子供の数が減ることも考えると、児童館を新しくしなくても学校の空き教室などを活用することで対応できるのではないか。
- 現状の児童館が抱える課題の解決方法は、複合化以外にもあると思うので、子育て支援を充実するのであれば、児童館の複合ではなく、保育の充実などを行ってほしい。
- 地域の避難所となる広場を作って平常時は子どもの遊び場にしたり、子育てに悩む親のための相談所を設けることができれば、子育て支援拠点というコンセプトがより強調できると思う。

追加・修正案

- B 案をベースにして、行政センターに災害時の対策本部になる機能を追加できるとよい。

- B案に児童館も複合できると子育て世代も訪れるようになり、多世代交流というコンセプトがより強まるのではないか。
- 行政の司令塔となる災害対策本部と地域の避難場所となる広場は、いずれの案でも必要だと思うので、B案に防災拠点機能を入れ、更に児童館も複合できるとよい。避難場所となる広場は平常時に子どもたちが遊べる空間として整備し、児童館には畳の多目的スペースを作って、子どもたちがくつろぐ場としてだけでなく柔道場としても利用する。

3 その他

(1) ワークショップの進め方

- ワークショップの回数が少ない。この回数でコンセプトまで決めるのは難しいのではないか。
- ワークショップでは、様々な部署が関連する話が出てきている。ワークショップに市役所の他の部署にも関わってもらえると、検討段階から情報の共有ができて、関連部署からのアイデアももらえるので、より良い案ができるのではないか。
- C案だけ集会機能について触れられていないが、集会機能は生涯学習センターと図書館が担うので、新しい複合施設には整備されず、多目的スペースのみが設置されるということなのか。